



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター 広報誌

# おいでだより

Take  
free

Osaka International Cancer Institute

季刊 Vol. 021

2026 Winter

## ★CONTENTS

- 01 いま最もよい治療を届ける  
— 腫瘍内科が大切にしている、がん治療の考え方 —
- 02 「問診生成AI」と「看護音声入力生成AI」の  
運用開始の記者会見を行いました
- 02 第3回 スキンケア教室「乳がん治療に伴う皮膚障害」
- 03 阪喉会のイベント「使ってみようEL」に参加して  
— 万博会場、大阪ヘルスケアパビリオン前の屋外ステージで —
- 03 病院で万博を体感！ 公立病院とパビリオンを繋いだ「未来の遠足」
- 04 今年も「LAVENDER RING OSAKA 2025」を開催しました！
- 05 がん治療を支える「食事」～意外と役立つ栄養食事指導～
- 06 ご寄付のお礼
- 06 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 07 寄付者ご芳名
- 07 ご寄付のお願い



2026  
Winter



## いま最もよい治療を届ける — 腫瘍内科が大切にしている、がん治療の考え方 —

**「がん」と診断されたとき、多くの方が大きな不安を抱きます。  
どんな治療があるのか。治療はつらいのか。これからの生活はどうなるのか——。  
腫瘍内科は、そうした患者さんやご家族の思いに寄り添いながら、がん薬物療法を  
中心に、一人ひとりにとって最適な治療を一緒に考える診療科です。**

がん治療には、手術、放射線治療、薬物療法など、さまざまな選択肢があります。なかでも近年は、従来の抗がん剤に加えて、分子標的薬<sup>\*1</sup> や免疫チェックポイント阻害薬<sup>\*2</sup> などが登場し、薬物療法の選択肢は大きく広がっています。腫瘍内科では、がんの種類や進行状況だけでなく、患者さんの体力や生活の背景も考慮しながら、その方に最も適した薬物療法を提案・実施できるよう努めています。

「標準治療」と聞くと、「ふつうの治療」「中くらいの治療」といった印象を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが。しかし標準治療とは、これまでに多くの研究で効果と安全性が確認された、現在の医療における“最もよい治療”のことです。当センターの腫瘍内科では、この“最もよい治療”を患者さんに届けるため、各診療科と密接に連携し、多職種によるチーム医療を大切にしています。

カンサーボード（症例検討会）では、外科、放射線治療科、病理診断科、看護師、薬剤師などが一堂に会し、治療効果だけでなく、副作用への対応や生活の質にも配慮しながら、治療方針を丁寧に検討しています。患者さんが安心して治療に臨み、日常生活をできる限り大切にできるよう支えることも、腫瘍内科の重要な役割です。

また、現在の標準治療を実践するだけでなく、将来の新たな治療法を開発するため、治験や臨床試験にも積極的に取り組んでいます。ご参加いただける患者さんは限られますが、新たな“次の標準治療”を生み出すため、患者さんとともに医療の発展を目指しています。

※1… がん細胞など病気の原因となる特定の分子（タンパク質や遺伝子）だけを狙い撃ちするよう設計された治療薬

※2… がん細胞が免疫細胞の攻撃から逃れるために使う「ブレーキ」を解除し、本来の免疫の力でがんを攻撃させる新しいタイプのがん治療薬

「腫瘍内科」  
ホームページ



<https://oici.jp/hospital/department/gansenmoni/rinnsyousyuyou/>

## 「問診生成AI」と「看護音声入力生成AI」の運用開始の記者会見を行いました

10月1日(水)、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所および日本アイ・ビー・エム株式会社(日本IBM)と当センターは、「生成AIを活用した患者還元型・臨床指向型の循環システム(AI創薬プラットフォーム事業)」の研究成果として、「問診生成AI」および「看護音声入力生成AI」の開発が完了し、本年9月から実運用を開始したことを発表しました。これらにより医療従事者の負担軽減と患者に寄り添う医療が実現することになります。

### 問診AI

患者さんやそのご家族が、お手持ちのスマートフォンやタブレット、PCなどの端末を使用して、人工知能(AI)アバターとのチャットを通じて、日々の体調を簡単に入力できます。音声入力にも対応しているため、副作用の影響で文字入力が難しい場合でも記録が可能です。

さらに、生成AIによる会話形式の問診によって、規定項目に加え、患者さんに過度な負担をかけることなく、体調不良時の状況や規定項目以外の症状についても引き出すことができます。

### 看護音声入力生成AI

看護業務における記録作業の中でも、特に改善効果が期待されるのが「看護カンファレンス」と「電話サポート」です。これらの業務に、生成AIと音声認識AIを活用することで、会話内容の書き起こしからカルテ記録のドラフトの作成、確認後の電子カルテへの取り込みまでを可能にします。



記者発表の様子

## 第3回 スキンケア教室「乳がん治療に伴う皮膚障害」

総務グループ 藤本 真由美

12月15日(月)、婦人科およびリハビリテーション科の協力のもと、今年度3回目となるスキンケア教室を開催しました。今回のテーマは「婦人科がん治療に伴う皮膚障害および浮腫を悪化させないセルフケア」でした。

細川医師からは、婦人科がんに伴う副作用とその対策について、丁寧にわかりやすくご説明いただきました。参加者の皆さまもメモを取りながら熱心に耳を傾けておられました。

次に藤井作業療法士からは、浮腫を悪化させないセルフケアに関する具体的なケア方法について、ご紹介いただきました。浮腫に悩みを抱える方も多く、参加者からは「大変勉強になった。今日お聞きしたセルフケアを続けていきたい。」との声が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

今回は広報にも力を入れたことで、皆さまのご支援のもと、多くの患者さんやご家族にご来場いただきました。実演を交えた対面形式により、スキンケア教室の魅

力と意義を改めて実感することができました。

SPRASHチーム一同、今後もより良いスキンケア教室を目指して取り組んでまいります。

引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。  
(総務グループ 藤本 真由美)

過去の動画視聴はこちらから▶

[https://oici.jp/hospital/patient/skin-care\\_kyoshitsu/](https://oici.jp/hospital/patient/skin-care_kyoshitsu/)



スキンケア教室の様子

## 阪喉会のイベント「使ってみようEL」に参加して —万博会場、大阪ヘルスケアパビリオン前の屋外ステージで—

頭頸部外科 藤井 隆

9月15日の敬老の日、喉頭摘出者の患者会である公益財団法人「<sup>はんこうかい</sup>阪喉会」主催のイベントが、約1時間にわたり行われました。

フリーアナウンサーの桶村 久美子さんの司会で、まず、摂南大学の学生さんと協力して制作されたEL (Electric Larynx:電気式人工喉頭) の紹介動画が上映され、その後、「喉頭がんの原因や治療」について解説を行いました。

続いて、ひとりで3種類の代用音声（食道発声・笛式人工喉頭・電気式人工喉頭）を使いこなす喉摘者の方の実演があり、それぞれの声質の違いと明瞭度に感嘆の声が上がりました。

また、健常者でも使用でき、別の声が出せるELを観客の皆さんにも体験していただきました。看護師や言語聴覚士などの協力もあり、積極的に参加される方が多く、すぐに話せるようになった方もいらっしゃいました。

最後に、詩人・谷川 俊太郎さんの「私たちの星」と「ありがとう」をみんなで朗読して幕を閉じました。当日は猛暑日でしたが、観客席は幸い大屋根リングの日陰になり、立ち見も出るほどの大盛況でした。

多くの方にELを知っていただくことで、喉頭を失ってELで話す方々が特別視されることのない社会の実現に向けた、「いのち輝く未来社会のデザイン」という大阪・関西万博のテーマにふさわしいイベントとなりました。



登壇される藤井先生



参加者全員で詩の朗読

### EL (電気式人工喉頭) とは…

声帯を失った方や、喉の機能に障害がある方が、発声を補助する電子機器です。喉にあてた装置の振動音を口や舌の動きを使って言葉に変換することで、発話が可能になります。



## 病院で万博を体感！ 公立病院とパビリオンを繋いだ「未来の遠足」

臨床研究センター 長尾 卓也

大阪府立病院機構・大阪国際がんセンターは、治療や病状により外出が困難な患者さんを元気づけることを目指し、「大阪・関西万博」とのオンライン交流会を実施しました。

当日は、当病院機構の大阪母子医療センターと大阪急性期・総合医療センターも参加しました。

9月30日(火)、パソナグループのご厚意とご協力により、大阪・関西万博に出展している同グループのパビリオン《PASONA NATUREVERSE》と、当センターの入院病棟や小児科外来をZoomで接続しました。

当日は、現地会場からのライブ中継や映像、スタッフによるクイズを通じ、会場を直接訪れているような臨場感あふれる遠足体験となりました。「いのち」や「未来の医療」をテーマとした展示は、参加された皆さんにとって深く心に響くものとなったようです。「万博行きを諦めていたが、病院にいながらにして体験でき、感動した」「希望が持

た」といった、喜びのコメントが寄せられました。

この特別な体験は、患者さん、パソナグループのスタッフ、そして橋井医師・屋木医師、小山師長、高木師長、松岡サブリーダーをはじめ、企画の実現に尽力した当センター職員が一体となり、未来への希望を共有できた充実した時間となりました。

当センターは、このような貴重な機会を提供して下さったパソナグループに、深く感謝申し上げます。

これからも地域社会との連携を深め、患者さんの心豊かな療養生活を支えるべく、尽力いたします。



▲パビリオン《PASONA NATUREVERSE》



▲「オンライン遠足」現地配信の様子



▲万博に関するクイズコーナー



▲病棟オープンスペースの様子

# 今年も「LAVENDER RING OSAKA 2025」を開催しました！

アピアランスケア WG/AYA世代サポートチーム 血液内科 多田 雄真

LAVENDER RINGは、「すべてのがんサバイバーを、笑顔にする。」をスローガンに、がんサバイバーシップの課題に“笑顔”という視点から光を当て、「社会のがんサバイバーへのまなざしを変える」ことを目指す取り組みです。

全国各地で行っている「MAKEUP&PHOTOS WITH SMILES (写真撮影会)」やポスター展に加え、海外での開催や、高校生による子宮頸がん予防の啓発企画など、活動の幅は年々広がり続けています。

当センターでは2023年から継続して協働しており、今年も看護部委員会のメンバーにボランティアとして協力いただき、LAVENDER RINGの皆さまとともに、11月8日(土)に1F大講堂で撮影会を開催しました。

院内外の患者さん13組にご参加いただき、メイクレッスンやヘアセットの後にプロのフォトグラファーによる撮影を行い、ご本人が大切にしているメッセージとともにポスターに仕上げ、当日プレゼントしました。温かい雰囲気の中、それぞれの「いまの笑顔」が美しく切り取られたポスターが

完成しました。

また、撮影会当日は新たな試みとして、「働くがんサバイバートークセッション in 大阪・関西～まだまだ始まってないじゃないか？これからの人生！」と題し、AYA世代でがんを経験した、異なる年代のお二人によるトークセッションもYouTubeで配信されました。



完成したポスターは、昨年に引き続き、谷町四丁目駅の地下通路や当センター館内で展示しました。地下通路を利用する方々や、当センターの患者さんとそのご家族が足を止めてポスターを鑑賞される姿も多く見られ、関心を寄せていただけたのではないかと感じております。

これからも、すべてのがんサバイバーが笑顔で生きられる社会の実現に向け、今年もより多くの方々と協働の輪が広がっていくことを願っております。

## 管理栄養士からのお知らせ

# がん治療を支える「食事」～意外と役立つ栄養食事指導～

栄養管理部門 松岡 美緒

食事栄養指導というと、糖尿病や高血圧などに対する「過剰を減らす」制限中心の指導をイメージするかもしれませんが、しかし、がん治療ではまったく異なる視点で考えます。

当センターでは、管理栄養士が患者さん一人ひとりの状況に合わせて、食事や栄養に関する個別相談を行っています。



### 管理栄養士に食事の相談をしてみませんか？

がん治療中は、手術や治療の影響、体調の変化などにより、「思うように食べられない」「何を食えばいいかわからない」といった悩みを抱える方も少なくありません。

食事に影響する症状は人それぞれです。こうした状況では、「不足を補う」「良好な栄養状態を維持する」ことがとても大切です。症状と向き合いながら、無理なく食べられる工夫を一緒に考えてみませんか？

#### 相談内容の一例

- ◆ 食欲がない時期があり、体重が減りそうだ  
→ 現在の食事内容を確認し、不足しがちな栄養素や補い方を一緒に考えます。
- ◆ 治療後の食事で気をつけるべきことを知りたい  
→ 病状に合わせて、体力回復や栄養状態の維持を意識した食事のポイントをお伝えします。
- ◆ 味覚異常で食べられるものが限られている  
→ 限られていても、その選択肢の中で栄養を確保する方法をご提案します。

**栄養食事指導は予約制です。ご希望の方は、主治医にお申し出ください。**



### 入院中の食事調整もお任せください！

入院中に召し上がっていただく食事は、がん治療の一環として、生活の質を高めるためにも重要な役割を担っています。入院中の食事内容や食べ方の工夫は、「食べやすい」「続けられる」食事スタイルのヒントとなり、退院後の食生活にもきっと役立ちます。

当センターでは、必要な栄養をできるだけ食事から摂ってもらえるよう、症状や希望に応じて食事の内容を調整しています。

#### 相談内容の一例

- ◆ 食事の量や食材のかたさ・大きさ（かむ力や飲み込みの状態、食欲に応じて）
- ◆ 水分量や味付けの濃さ（口の乾きや味覚の変化に配慮）
- ◆ 食材の種類や調理法（消化器の症状や好みに合わせて）

これらを組み合わせながら、患者さん一人ひとりに合った食事を提供できるよう努めています。

**食事に関して調整をご希望の際は、担当看護師や主治医にお申し出ください。**

## ご寄付のお礼

経営改革グループ 山本 公亮

日頃より、大阪国際がんセンターの活動に温かいご理解をいただき、誠にありがとうございます。テレビや新聞などでも話題となりましたが、ここ数か月、「なかやま」様の X (旧ツイッター) への予約投稿をきっかけに、医療機関へのご寄付の輪が大きく広がりました。当センターにも多くのご支援が寄せられ、11 月のご寄付の件数は1か月当たり過去最高を記録しております。

職員一同、皆さまのお気持ちに心から感謝するとともに、その善意の輪が遠く大阪の病院まで届いていることに、深い感動と励ましをいただいております。

この場をお借りし、なかやま様のご逝去に際し、謹んでお悔やみ申し上げます。また、ご寄付をお寄せくださったすべての皆さまに、心よりお礼申し上げます。

皆さまからの大切なご支援は、がん医療の充実や医療機器・研究環境の整備、そして患者さんやご家族が少しでも安心して治療に向き合える環境づくりのために、有効に活用させていただいております。

がん医療は日々進歩を続けています。より高度で質の高い医療の提供には、皆さまのご理解とご支援が欠かせません。職員一同、ご寄付に込められた思いを力に変え、これからも患者さん一人ひとりに寄り添った医療の提供に努めてまいります。

今後とも、大阪国際がんセンターの取り組みを温かく見守り、ご支援いただけましたら幸いです。  
(ご寄付の方法につきましては、最後のページをご覧ください。)

## はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター長 池山 晴人

【file 021】

認定がん相談支援センターの更新認定を受けました！



当センターのがん相談支援センターは、このたび国立がん研究センターより、認定がん相談支援センターの更新認定を受けました。

認定がん相談支援センターとは、「質の高いがん相談支援を提供できる体制が整っている」と国が認めた相談窓口です。全国 464 力所の相談支援センターのうち、審査を経て認定されているのは 31 施設で、大阪府内では 6 施設です。

認定基準には、国立がん研究センター主催の研修を修了した専門相談員の配置、多職種との連携体制、継続的な質の評価と改善など、多くの要件があります。

私たちががん専門相談員は、科学的根拠と実践に基づく確かな情報を提供し、患者さん一人ひとりが「自分らしく生きる」ための治療や生活の選択を支援しています。医師に代わって診断や方針の検討などはできませんが、がん治療の一般的な内容、経済面や就労、ゲノム医療に関する情報、AYA 世代特有の悩み、妊よう性温存、治療と仕事の両立支援まで、幅広いご相談に対応しています。

今後も「認定がん相談支援センター」として、安心してご相談いただけるよう体制を整えてまいりますので、どうぞご利用ください。

♥がん相談ホットライン (情報提供・相談専用) ☎ 06-6945-1870

♥希少がんホットライン ☎ 06-6945-1177

電話対応時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）  
午前 10 時～午後 4 時

# ご寄付について

## 寄付者ご芳名

2025年10月1日～12月31日

受領日順／ご希望者のみ掲載

久保田 博壽様、許 益雄様、桜井 羊子様、加藤 順子様、山本 幸彦様、浦 初美様、竹内 敏浩様、向井 闘志様、木村 英基様、川端 友貴様、大曾 はつね様、川路山 節子様、奥田 詩織様、濱田 義勝様、東海 なぎさ様、田中 実花様、橘高 義明様、岡 実様、矢田 朋子様、北村 可織様、野本 隆博様、松本 英太郎様、福地 直子様、笹原 光貴様、笠 知晴様、高山 富士夫様、吉岡 亜有美様、岩下 未誉子様、加藤 賢徒様、林 明雄様、立神 榮恵様、前川 京子様、石井 静様、渡部 孝之様、株式会社ハイメディック様、片岡 芳仁様、松本 亜紀様、直江 明日香様、池上 昌三様、由村 義廣様、由村 ツネ子様、向手 さゆり様、守安 琢様、飯塚 修三様、山本 貴司様、原 明伸様、渡辺 貴一様、阿形 友紀乃様、岩田 時致様、佐藤 寛様、藤原 政枝様、鴨井 千恵子様、大原 大治様、多飯田 哲生様、一般社団法人グリーンケア希望・AYA 家族支援センター様、金田 文子様、谷川 勝信様、松村 恒彦様、一般財団法人みどり健康管理センター様、上田 久之様、日本建物株式会社 代表取締役 利本 保徳様、松崎 哲也様、近畿産業信用組合様、野口 喜代美様、宮本 創一朗様、在野 浩様、小池 次雄様、暮部 勢子様、内田 恵三様、南 晶子様 他 匿名者 68 名

このたびもさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。温かいお心遣いに感謝するとともに、ご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い医療とサービスを提供してまいります。

## ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」で治療に当たるセンターでありたいと考えています。患者さんの療養環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆さまからのご支援をお願いしています。

### Web サイトからのお手続きも可能です

従来の申込方法に加え Web サイトからでもご寄付のお申込みを受け付けております。**クレジットカード、Google Pay、Apple Pay (1 回あたり 100 万円まで)、銀行振込**によりご寄付いただくことが可能です。



<https://oici.jp/center/effort/donation/donation-application/>

## OICI だより 2026年冬号 〈季刊〉



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

## 大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター

編集 事務局 経営改革グループ

〒541-8567

大阪市中央区大手前 3-1-69

TEL.06-6945-1181 (代表)

2026年1月発行



病室(城側)からの眺望



ホームページ



<https://oici.jp/>

フェイスブック



@oici.jp

ライン



<https://lin.ee/ZOCdHhU>

インスタグラム



@oici\_1181

- ◆電車でご来院の場合  
Osaka Metro「谷町四丁目駅」北改札口から徒歩約5分/  
京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約10分
- ◆バスでご来院の場合  
大阪シティバス「大阪城大手前駅」より徒歩約4分
- ◆お車でご来院の場合  
東大阪線「法円坂出口」より約5分／東大阪線「森之宮出口」より約8分

※ QR コードは (株) デンソーウェブの登録商標です。